

みんなとともに笑顔いっぱい — 創立百周年 その先の未来へ みんなとともにスマイルミッション —



# みんなとともに



南 伸慈 特別支援教育協力員が、10月末で離任されました。平成29年4月から本校に勤務されましたが、この間、1年生を中心に、子どもたちの支援をしていただきました。子どもたちにとって「身近で大きな存在」であった南 協力員のご多幸を皆様とともにお祈りしたいと思います。  
なお、11月1日より富田美和子協力員が勤務しております。併せて、よろしくお願いいたします。



## 創立百周年記念「学習発表会」大成功！

— 子どもたちへの励ましのお言葉をいただき、ありがとうございます —

### 【児童の作文から】

「最高の学習発表会」 6年 中濱 亜子

私は、今日の学習発表会で、みんなと協力して劇を大成功することができた。

学習発表会の最後の方になり、四年生の発表が終わり、とうとう六年生の番になった。ネックレスや指輪などをし、ステージ裏に行き、緊張しながら自分の番を待つ。緊張しているときにクラスの友達が、

「大丈夫だよ。」

だとか、

「がんばろうね。」

とってくれたおかげで緊張は少しほぐれた。

( [中略] ここに学習発表会の細かな描写があるのですが省略します。 )

閉会の言葉でも無事にセリフを言え、最後には笑顔で、手をふるすることができた。最高の時間だった。

「ワンフォーオール、オールフォーワン」、もちろんこれは「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味だ。学習発表会の前日の私はこの意味は知っていたが、机や花を指さして、確信を持ってきっぱりと、

「これは机です。これは花です。」

と言うように、

「これが、ワンフォーオール、オールフォーワンというものです。」

とは言えないのだ。なぜなら、これは机や花とはちがって簡単な形ではないのに、人によって思い浮かぶ景色や経験がちがうため、自分で見つけるしかないからだ。しかし、今日、自分の中の「ワンフォーオール、オールフォーワン」というものが、はっきり見えた気がする。それは、みんなと一緒に魅力的な劇にしようと、進んで一人で練習や工夫をしている景色、心に残る劇にしようとだれかの緊張をみんながほぐしている景色、つまり、このような「協力」だと思う。

家に帰ったら、父や母、弟や祖父がとてもほめてくれた。最高の一日だった。ずっとこの日が続けばいいのにと考えたくらいだ。だって、心に残る思い出ができた日であり、「ワンフォーオール、オールフォーワン」が見えた日でもあるからだ。この日は数多くの私の「宝物」の中の一つとなった。



6年の学年だよりの題名が「ONE FOR ALL ALL FOR ONE (ひとりとは、みんなのために みんなは、ひとりのために)」です。学習発表会という場を通して、この言葉が「胸に落ちた」のでしょうか。「担任の思い」は子どもたちに通じました。6年生が最高学年にふさわしい活躍をしていることをうれしく思います。